



紫式部と朝倉氏ゆかりの地へ

福井県の歴史旅

2024年NHK大河ドラマ「光る君へ」の主人公、紫式部。彼女が唯一、京を離れて暮らした地である武生を出発地として、戦国時代に朝倉氏が栄華を築いた二乗谷、さらに両時代と深くかわる敦賀をめぐりながら、隔てられた時間軸のつながりを感じる福井県の歴史旅に出かけた。



旅と鉄道
Presents



紫式部が暮らした地

武生から「紫式部公園」へ

平安時代の雅を体験できる
寝殿造庭園と資料館

車通りから一歩足を踏み入れると、突如広がる平安時代の世界——。紫式部を語る上で欠かせない要素といえば、生涯唯一の地方暮らし、すなわち越前市武生での1年余りの日々だ。『源氏物語』の地方描写は、この地での生活体験があったからこそ成り立ったともされている。今回の歴史旅で、最初に訪ねたのは、彼女をしのんでつくられた「紫式部公園」。およそ3000坪の敷地は、160mに及ぶ「藤の花回廊」に囲まれた南側の芝生広場と、北側の寝殿造庭園によって構成されている。

このうち冒頭の時間旅行気分になれるのが、平安時代の貴族の住居、寝殿造りを模した寝殿造庭園だ。当時の住まいが自然光を取り入れるため、東西に長かった点まで忠実に再現されている。南門から入り、広大な池の中央部に架けられた平橋を渡り、中島へ、さらに反橋を進んでいくと、主殿にたどり着く。建物のう



紫式部公園

紫式部をしのんでつくられた公園で芝生広場と寝殿造庭園からなる。寝殿造庭園の一角には『源氏物語』にちなんだ花々が植えられ、春から夏にかけては色とりどりの景色が楽しめる。散策にもおすすめ。

DATA
住：福井県越前市東千福町369
時：入園自由
ACCESS：武生駅から福鉄バス白山行きで紫式部公園口下車、または越前市民バス「のろっさ」市街地循環南ルートで紫式部公園下車



「紫式部日記絵巻」のレリーフを背に立つ紫式部像。視線は日野山をとらえる



平安ゆかりのキャラクター紫式部。デザイン系の専門学校、滋慶学園の学生による作品で、今後観光振興などに活用される



庭園内でも目玉の一つ、釣殿。平安時代には舟遊びの乗降のほか納涼や宴の場となった

歴史の謎

紫式部は、なぜ越前、武生へ

越前守として武生の越前国府に赴任する父、藤原為時と同行し、紫式部が武生へと赴いたのは996年のこと。越前国の敦賀には外国からの使者をもてなす「松原客館」が置かれ、漢詩に長けた為時が登用された。一方の紫式部は、親子ほど年の離れた藤原宣孝から求婚を受けており、「少し考える」意味でも京を離れたのだとか。997年には、単身京に戻り、宣孝と結婚。冬の寒さが堪えたことも帰京を急いだ理由とされており、彼女の歌集『紫式部集』は、越前の雪の厳しさを詠んだ歌を収載している。

Topics!

「式部とふじまつり」を毎年開催



優雅な藤の花と源氏物語の世界を感じるまつり

紫式部に想いを馳せて、毎年5月3日に開催。日舞や箏曲による「源氏物語コンサート」、香りの聞き比べである「源氏香ラリー」のほか、十二単をまとった平安行列など、源氏物語をテーマにした雅なプログラムが盛りだくさん。藤の花が見頃を迎える時期であり、白や若紫色に染まったあでやかな花回廊も楽しめる。



紫ゆかりの館

2021年4月に開館した資料館。紫式部や源氏物語はもちろん、式部が過ごした平安時代の暮らしや文化も学べる。物販コーナーでは当時から今に続く伝統工芸品で作られた雑貨、日用品なども扱っている

DATA

住：福井県越前市東千福町21-12
時：9:00~17:00
休：月曜※休日の場合は翌平日休、年末年始
入館料：無料
ACCESS：紫式部公園に隣接

Gourmet

武生といえばコレ！ おすすめグルメ



越前そば

だしに大根おろしを入れて食べるそば。武生発祥で400年の歴史を持つ。大根の辛さが味を引き立てる。



ボルガライス

オムライスにトンカツを載せたがつつりグルメ。由来や発祥はわかっておらず、店ごとに味付けが異なる。

ち基壇が再現され、現代にくらべて基礎が高い造りだと理解できる。東に向かうと、池に臨む場所に、舟の乗り降りなどに使用された「釣殿」がしつらえられている。気になったのは床板に空いている隙間。ポランテアガイドの藤田辰男さんによれば、涼を取る、あるいは雨水を流すためとのこと。夏場の暑さや降水に悩んでいたのも、それらを解決するための工夫を凝らそうとするのも、現代とまるで変わらない。遠く離れた昔の人たちの心情が身近に感じられた。

また、公園の北西には、高さ3mの紫式部像が立つ。体は京都を向きながらも、視線は彼女が歌にも詠んだ霊峰・日野山をとらえているのが特徴だ。慣れ親しんだ土地に恋しさを募らせつつ、現在の生活に向き合おうとしている、揺れる心が表現されているように見えた。公園に隣接し、2021(令和3)年には資料館「紫ゆかりの館」がオープン。入館早々に迎ええてくれるのは館の主ともいえるべき紫式部だが、簾越しであるうえに後ろを向いているため、その表情を知ることができない。容易にはお目にかかれない平安時代の逢瀬スタイルだ。館内では、几帳風グラフィックや映像作品により、紫式部の生涯や越前市との関係などが解説されていた。また、『源氏物語』はたくさん女性の登場する作品。タッチパネルで質問に答えることで、どの姫君タイプかを判断、短冊形の結果表がもらえる「姫みくじ」もあり、紫式部や源氏物語をただ学ぶだけでなく、作中の人物たちと距離が近づくような体験もできた。

朝倉氏一族が栄華を築いた

越美北線で一乗谷へ



右／一乗谷を走る越美北線では、戦国をテーマとした「戦国列車」が運行開始 左／明るめの灰色を基調とした2階建ての建物外観 下／発掘調査で出土した遺構を屋内で展示する「遺構展示室」。戦国時代の地面が露出している



福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館

2022(令和4)年10月にオープンした資料館。当主の暮らした朝倉館の一部原寸再現、遺構の露出展示のほか、城下町を再現した巨大ジオラマ、多くの出土品が見どころで、朝倉氏城下町の全体像や歴史的価値を多角的に学べる。

DATA

住：福井市安波賀中島町8-10

時：9:00～17:00※入館は16:30まで

休：月曜日、年末年始※臨時休館日あり

入館料：700円、高校生400円、小中学生200円、70歳以上350円

ACCESS：JR越美北線一乗谷駅から徒歩3分



遺構の状況をもとに城下町を再現したジオラマ。賑やかな都市の様子がわかる

市政の人々の暮らしもわかる
戦国時代が掘り起こされた地

続いて訪れたのは、紫式部の時代からおよそ500年後、戦国時代に朝倉氏が栄華を誇った福井市の一乗谷朝倉氏遺跡だ。朝倉氏一族は、戦国時代の始まりとなる応仁の乱を契機として大名化、5代103年(1471年～1573年)にわたり続き、戦国時代の終焉とともに滅亡。加えて、朝倉氏が一乗谷に城下町を築き、滅亡後は山間の農村へと姿を変えたことから、朝倉氏遺跡には城下町全体が良好な遺構として残されており、時を越えて運ばれてきた箱舟のような存在ともいえる。

まずは「福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館」を学芸員の宮永一美さんに案内いただいた。出土品の調査手法などを実際に体験できる探究ラボを抜けた先は、遺構展示室に続く。外気と同じ温湿度を保ちながら、屋内で遺構を展示するための工夫が施されていた。眼前には、丸い河原石の積まれた石敷き遺構が東西に延びており、東側に足羽川が位置していることから川港の一部であったとする説、西側に位置する経堂の参道とする説があり、今後、明らかにする可能性が高いそうだ。

基本展示室には「一乗谷のくらし」



歴史の謎

「一乗谷では「源氏物語」が 読まれていた

源氏物語が学問、研究の対象として盛んに学ばれていた戦国時代、京の情勢が不安定だったことから、その担い手であった公家衆たちは地方に下向、求めに応じて写本の提供や、講義を行った。京に近い越前にも知識人たちが来訪。朝倉氏の家臣たちは彼らから源氏物語、さらに作品を通して歌の道を学んだ。また、越前が紫式部ゆかりの地であることは当時の武士たちにも知られ、自分たちの誇りにつながったとされており、宴の席では、越前の武士たちを喜ばせるべく、賓客たちが源氏物語にちなんだ歌を詠んだ。

朝倉氏の滅亡とともに田畑に帰した、
歴史ロマンあふれる一乗谷の城下町へ。



朝倉館原寸再現では、戦国時代の甲冑や着物の衣装着付けが体験できる。戦国気分が浸りながら越美北線との記念撮影も可能



一乗谷朝倉氏遺跡復原町並

発掘された朝倉氏の城下町を再現した施設。町家と一部の武家屋敷が立体復原され、建物内も見学することができる。近くには5代目、義景の館跡があり、菩提を弔うために江戸時代に建てられた寺の唐門が残されている。



DATA
福井県福井市城戸/内町
時:9:00~17:00※入館は16:30まで
休:年末年始
料金:330円、中学生以下、満70歳以上無料
ACCESS:JR越美北線一乗谷駅から徒歩15分



町家は外観だけでなく生活の様子も再現。こちらは辻に建つ商家で、今にも人が動き出しそう

として、食器や調理具・貯蔵容器などの本物の出土品がずらりと並ぶ。宮永さんによれば、発掘調査によって、書物文献には書かれていない市井の人々の日常の暮らしがわかること。出土した破片をつなぎ合わせ、過去を蘇らせていくさまにはロマンすら感じられる。実際、加工途中の数珠玉や水晶の破片が多数出土したことで、そこには数珠を製作する職人が住んでいたことなどが判明。こうした町の様子は城下町のジオラマでわかりやすく展示されていた。博物館で得た学びを抱えて向かったのは、町家と一部の武家屋敷を立体復原した一乗谷朝倉氏遺跡復原町並だ。井戸やトイレなども再現され、家屋の規模感も含めて、暮らしぶりへの理解がより一層深まった。朝倉氏遺跡の発掘調査が本格的に始まったのは約50年前のこと。現在進行形で調査の続く、生きた遺跡だ。

鉄道の街、敦賀で歴史さんぽ

歴史を感じる敦賀を歩く



清明神社

平安時代の陰陽師、安倍清明が敦賀に住み、天文や地文の研究を重ねたことにちなんだ神社。戦国時代に戦火から町を守ったことから、防火の神として信仰を集める。六角形の「祈念石」がご神体として祭壇の真下に安置されている。

小窓に体をねじ込み「祈念石」を見る。石にお賽銭がのれば願いが通じるとされている

DATA

住：福井県敦賀市相生町8-21

拝観：土・日曜の9:00～16:00※平日は事前に連絡を
(敦賀観光協会 TEL0770-22-8167)

ACCESS：JR北陸本線敦賀駅よりタクシーで約8分



金崎宮近くの赤レンガ倉庫では、鉄道の街・敦賀をジオラマで体感できる



金崎宮

1336年に尊良親王、恒良親王を奉じて下向した新田義貞が足利軍と戦った古戦場、金ヶ崎城跡に建立された神社。桜の開花時期には御祭神の両親王や将士を慰める花換祭を開催。

DATA

住：福井県敦賀市金ヶ崎町1-4

拝観：自由

ACCESS：JR敦賀駅よりぐるっと敦賀周遊バス金崎宮下車、徒歩5分



ヨーロッパへの玄関口だった時代の敦賀港駅舎を再現した敦賀鉄道資料館



信長、秀吉、家康がそろい踏み
天下取りのターニングポイント

敦賀では「清明神社」「金崎宮」を訪ねた。清明神社は、紫式部と同じ平安時代を生きた陰陽師、安倍清明がこの地に住み、天文や地文の研究を重ねたことにちなんだ神社だ。清明が占いに用いたとされる「祈念石」がご神体として祭壇真下に安置され、小窓から覗き見ることが出来る。

一方の「金崎宮」は、1570年に織田信長が朝倉義景討伐の軍を起し、徳川家康、木下藤吉郎(豊臣秀吉)を率いて進軍した地。山城の金ヶ崎城を攻略、越前に向かわんとしたところで、近江浅井氏の裏切りの報が届き、急遽退却に。最後尾で「しんがり」を担ったのが秀吉だった。天下取りへの大きな転換点となったこの戦いは「金ヶ崎の戦い」「金ヶ崎の退き口」として知られている。「金崎宮」からは敦賀市内が一望でき、この街が山に囲まれた地形であること、決して容易な退却ではなかったことがよくわかる。

越前市、福井市、敦賀市を訪ねながら、平安、戦国時代を巡った。3つの離れた地が歴史で、2つの離れた時代が人を介してつながっていくなかで、歴史旅のおもしろさを強く感じた。

武生から福井へは F2000形がデビューする福井鉄道で!



上／新車両F2000形。これまでの車両と違う直線的なフォルムがかっこいい
右／福井市内を走るF1000形「FUKURAM」
左／ミュージアムの中心となる木造の北府駅



近未来感あふれる新車から
往年の名車まで勢ぞろい

紫式部ゆかりの武生と福井市を結ぶ福井鉄道は、のどかな田園風景から路面電車区間まで、車窓に変化が楽しめる路線。3月27日には直線フォルムが特徴のF2000形電車「FUKURAM Liner」が運行を開始。「越前がに」のつり革などで、移動しながら福井を感じられる。また3月19日には、「北府駅鉄道ミュージアム」がオープンした。名車として名高い200形も静態保存され、鉄道ファンからの注目度も急上昇中だ。

今の福井は鉄道が熱い!

いよいよ1年後に迫る、 北陸新幹線敦賀延伸開業

東京～福井が3時間弱!
所要時間が30分以上短縮

2024年3月の北陸新幹線敦賀延伸開業に向けカウントダウン開始。恐竜オブジェで彩られた福井駅、整備新幹線最大規模となる敦賀駅など、個性豊かな各駅の様子も明らかになりつつある。開業後は東京～福井が34分短縮され、2時間53分で結ばれる。



延伸開業区間唯一の新駅、越前たけふ駅

「ハピラインふくい」に決定!

幸福度日本一、福井
「しあわせ」の並行在来線

北陸新幹線敦賀開業後、北陸本線敦賀～大聖寺は三セク「ハピラインふくい」が受け継ぐ。福井鉄道、えちぜん鉄道に続く、県内3社目の私鉄・三セク。名前は、福井の「福」を表す「ハピネス」、「ひと」と「まち」をつなぐ「ライン」に由来。



南条～王子保間で北陸新幹線の高架の下を走るJR北陸本線

福井県の歴史旅MAP

